建築と社会

Architecture and Society
2008
No.1039
日本建築協会
10

■特集予告
11月号/建築においてROBOTが活躍する日は来るか？
12月号/自然と戦う構造

編集委員会（平成20年度）
■副会長
井上　豊
松村　孝治
■編集担当理事
上原　正行
木戸　徹
佐藤　栄一
佐藤友美子
◎設楽　貞樹
竹中　統一
立成　良三
松村　孝夫
吉村　英祐
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
飯田　匡
飯沼　清明
鈴木　克彦
田中　慎治
田中　直人
紅谷　昇平
松田奈緒子
△三宅　次郎
守井　辰
吉村　英祐
★建築計画系
安部　新二
荒木　宏之
江副　敏史
奥村　朋孝
菅野　忠司
神戸　嘉也
木多　彩子
△楠　敦士
小林　優子
所　千夏
野田　隆史
枇杷　健一
松森　織江
★インテリア・住宅系
阿部　泰浩
加藤　力
神谷　浩司
黒柳　亮
髙野　直樹
田中　浩介
戸井賢一郎
ペリー史子
本山　仁
■構造分科会
秋田　智
岸本　光平
瀧野　敦夫
鶴田　潤
中塚　光一
難波　尚
△房安　智也
松村　健
向井　洋一
安野　郷
矢野　勇二
■設備分科会
△赤澤　正治
梶井　宏修
河井　康人
北野　勝也
谷野　太志
夏井　重行
福谷　周
桝井　貴廣
村上幸三郎
山下　修
渡邊　裕之
■施工材料分科会
桜井　和男
下迫　力
平田　茂良
藤丸　啓一
△山岡　篤人
吉田　正友
■法令分科会
伊賀　誠
片岡　正和
金本　忠義
河野　学
坂本　智生
△谷本　和子
中迫　悟志
文山　達昭
■作品作風小委員会
○居内　章夫
池上　明
稲垣　和江
井上　雅祐
岩佐　進
加嶋　章博
倉渕奈千子
澤田　純一
戸川　勝之
鞆野　淳司
豊田　充広
鳥居　久人
長堀　晃治
西田　佳代
芳谷　晴彦
増田　敬彦
山田　俊紀
■広告企画小委員会
上田　訓将
宇城　英彦
江本　孝弘
○虎谷　伸幸
○前田　衛
南澤　浩司
森川　幸信
■10年委員会
赤木　隆
川上比奈子
熊田　将男
河野　浩司
齊藤　幸代
菅原　幸也
中村　文紀
○前川　治彦
◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2008年9月25日
発　行　2008年10月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9-39975
印刷所　㈱NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕

Journal of the Architectural Association of Japan

特集　「木造住宅を巡って ～主に法制度の観点から～」

【総論】
日本における木造住宅の歴史・意義・課題●多治見左近 ―― 10
木造住宅を巡る法制度の変遷・意義●河合直人 ―― 14
【各論】
良好な木造住宅の誘導方策～環境性能評価CASBEEと木造住宅～ ●清家　剛 ―― 18
既存伝統木造住宅の性能評価と法制度●田村佳英 ―― 21
地震と既存木造住宅の耐震改修●杉山義孝 ―― 23
木造の可能性―デカルトの「方法」をめぐって―●樫原健一 ―― 26
木造振興の現在と今後●築山佳永 ―― 29

会告　平成20年度建築工事実務講習会．第25回茶室見学会「清流亭」〈非公開〉（予告）「日本建築協会80年史1917-1996」残部あります！　1

作品作風　テシマ化研テクノステージ新工場　4

研究の風景　住居デザイン研究室（渡辺秀俊ゼミ）（文化女子大学造形学部住環境学科）　6

gallery　「終の棲家、考」（新井律子）●居内章夫　8

法令コーナー　特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律の概要 ●四反田智裕　31

設備の頁　雷サージから家電製品を守る●下嶋康弘　32

書評　街づくりのライフストーリーワーク●弘本由香里　34

information　平成20年度違反建築防止週間「住みよい街づくりのために～安全・安心な建築物の推進に向けて～」．建設リサイクル法　府内一斉パトロール．平成20年度「住生活月間」．第2回「まちづくり条例の現状と課題」．Japan 蒔絵　宮殿を飾る 東洋の燦めき．関西のグラフィックデザイン展1920年―1940年代．「生活と芸術―アーツ&クラフツ展」ウィリアム・モリスから民芸まで．読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界―浮世絵から源氏意匠まで―．特別展「革新者たちの挑戦」～よき人よき友　松篁がみつめた人々～．削る―鉋の世界―．野村　仁展．特別展 茶人のまなざし「森川如春庵の世界」．オコナイ　湖国・祭りのかたち展．坂本一成 建築展『日常の詩学』．「同質な異質」II．『地図にみる関東大震災』発刊　35

アンケート　第一線の建築設計者に聞く“いち押し”建材・設備●東リ　38

月間の動き　平成20年8月分　40

表紙　デザイン　花城 辰男（時空アート）
本文　デザイン　高橋 善丸